

国語 第4学年 じょうほうのとびら：引用する 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある5月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「どこまでが資料の言葉でどこからが自分の説明か」を問い、短い資料から必要な部分を引用し、出典を添えて自分の説明に組み込む。引用を含む説明文の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)イ	イ 書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、本時に必要な調べ方や記録の仕方を確かめ、情報を扱う活動で使う。思考・判断・表現では、短い資料から必要な部分を引用し、出典を添えて自分の説明に組み込む。交流や試行の前後を比べ、引用を含む説明文を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①引用する部分を元の資料と同じ言葉で示し、自分の文との区切りと出典を明らかにしている。（〔知識及び技能〕(2)イ）	①「書くこと」において、自分の説明に必要な引用を選び、段落の中で引用と説明がつながるように構成を考えている。（B(1)イ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○短い資料から必要な部分を引用し、出典を添えて自分の説明に組み込む。 ○どこまでが資料の言葉でどこからが自分の説明かを考え、最初の答えとその理由を残す。	知①・思①（発言・学習記録）
第2次	2	○友達の説明と比べ、引用を含む説明文を見直す。 ○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。	思①・態①（見直しの記録）



本時の案

本時の目標：必要な部分を正確に引用して出典を添え、自分の説明と引用の関係が伝わる段落を構成できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「どこまでが資料の言葉でどこからが自分の説明か」 【めあて】引用と自分の言葉の区別について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・引用した部分と自分の考えを分けたい。 ・どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。借りた文を自分の文として書く姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 短い資料から必要な部分を引用し、出典を添えて自分の説明に組み込む。 3 書いたものを読み返し、「どこまでが資料の言葉でどこからが自分の説明か」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確認する。 4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。 ○引用を置く前後の文を読み、自分の説明のどの部分を確認するための引用かを説明する。伝わりにくい場合は、引用の位置や前後の文を直す。 〈予想される児童の反応〉 ・引用した部分と自分の考えを分けたい。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	教師作成資料を使い引用符と出典の対応を確認する。知識・技能では、引用する部分を元の資料と同じ言葉で示し、自分の文との区切りと出典を明らかにしている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①自分の説明に必要な引用を選び、段落の中で引用と説明がつながるように構成を考えている。(B(1)イ)(初稿・見直した稿・修正理由)
まとめ (分)	5 引用を含む説明文を確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】資料から必要な部分を正確に引用し、出典を示して、自分の説明とは区別する。引用を置く場所と自分の説明のつながりも確かめる。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。どこまでが資料の言葉でどこからが自分の説明かへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（引用を含む説明文と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には引用と自分の言葉の区別を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に引用を含む説明文で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

予想する難しさは、借りた文を自分の文として書くことである。教師作成資料を使い引用符と出典の対応を確認する。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

引用を含む説明文

「どこまでが資料の言葉でどこからが自分の説明か」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。教師作成資料を使い引用符と出典の対応を確認するための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_4_202401.docx）／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf）／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

